

宮地小だより

12月

文責
八代市立宮地小学校
校長 嶋村 立馬

「み」みんななかよく 「や」 やいとげよう最後まで 「じ」 自分からすすんでがんばる宮地っ子

楽しい冬休みを過ごしてください!!!

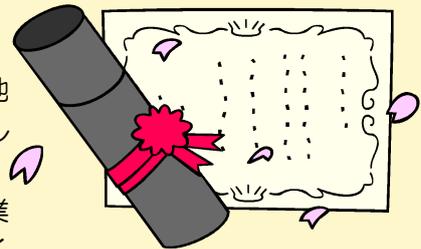
長かった2学期もあっという間に過ぎ、いよいよ本日が終業式となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が止まらない中スタートした2学期でしたが、それぞれの学年でみんな楽しく行事に取り組んでくれて、一人一人の成長した姿を見ることができました。修学旅行、社会科見学、わ・わ・わっ学習発表会、持久走大会と、それぞれの行事で子どもたちは成長した姿を見せてくれました。先日は、各学年の子どもたちが、これまでの人権学習で書いた作文を発表してくれました。それぞれがこれまでの自分を振り返り、友達やクラスへの思いを発表しました。聞いている子どもたちからもたくさんのお返しがあり、学びを深める機会となりました。子どもたちが様々な行事で見せてくれた前向きな姿勢、とてもうれしかったです。そしていよいよ冬休み。子どもたちには、冬休みの間、おうちのお手伝いをがんばってほしいと思っています。子どもたち一人一人が元気に学校に通えたのも、おうちの方の協力があつたからこそです。一人一人が、自分たちを支えてくれる家族や周囲の人たちへの感謝の気持ちを持ち、友だちのことを考えて行動できる思いやりのある人になってほしいと願っています。



冬休みの間も、規則正しい生活や交通安全、事故などに気をつけ、冬休みを健康・安全に過ごし、また元気な姿で1月10日に登校してきてくれるのを楽しみにしています。

手すき和紙 卒業証書に

宮地小では6年生が手漉き和紙作りを行い、それを卒業証書にしています。自らが作成した手漉き和紙は、自分だけの卒業証書になります。紙漉きの技術は、約400年前に、柳川藩から宮地町に移り住まれた矢壁新左衛門さんが伝えたとされています。そして、宮地小学校の手漉き和紙づくりは約30年続く伝統行事です。これまで、矢壁政幸さんの指導の下、子どもたちは自分だけの卒業証書づくりを行ってきましたが、この度、矢壁政幸さんの訃報を聞くこととなりました。



ただ、これまで続けてきた手漉き和紙作りを子どもたちが楽しみにしているだろうと、矢壁政幸さんのご家族の皆さんが、手漉き和紙作りを指導を引きうけてくださいました。そして先週の土曜日に、矢壁さんのご自宅の工房で、6年生の手漉き和紙作りが行われました。当日は子どもたち一人一人に丁寧に指導していただき、手漉き和紙作りを無事行うことができました。

これまでご指導いただきました矢壁政幸さん、心より感謝しています。そして、今回ご指導いただきましたご家族の皆さま、本当にありがとうございました。